

◆ テーマ

ビオトープ～幼稚園のカエルを守ろう～

◆ テーマの設定理由

当園に隣接する西応寺に池があり、その池にはカエルが昔から生息していた。

カエルに子ども達は親しみをもってかかわっていたが、池が撤去されてしまい、カエルの居場所がなくなってしまった。

昨年度末に作ったカエルの住处（以下、“カエル池”）を子ども達と相談して、カエル等にとって住みやすい場所に作りかえていくことにした。

◆ 活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
【4月～通年】 カエル池とのかかわり	(15分～1時間程度)	日により異なる (5～10人)
【6月21日】年長児と相談(a) 『カエル池が壊れてきたけど、どうする?』	30分間	19人
【7月6日】 カエル池の拡張工事	1時間程度	子どもの出入り自由 (10～20人程度)
【11月11日】年長児と相談(b) 『カエル池の現状とこれからできること』	50分間	8人
【11月16日】 年中児が2つ目のカエル池を造成	1時間程度	子どもの出入り自由 (10～20人程度)
【11月28日】 カエルの階段・スロープづくり	20分間	8人

◆ 探究活動の実践～活動の内容～

➢ 【4月～通年】カエル池とのかかわり

*準備したもの：バケツ/すくい網/井戸水/たらい/(カエルが逃げないための) ネット/土/草/餌になる虫(ミミズ/ダンゴムシ)



《水の取り換え・ボウフラとり》
Q.ボウフラがいなくなるにはどうしたらいいのかな?
子ども「メダカとかが食べてくれるんだって。」→メダカを池に入れてみよう!

カエルをタライで飼ってみる

園庭にカエルがいたので、玄関で飼うことに。名前は“だいきち”。その後、カエル池に「だいきち嬉しいかな」と入れてあげたが、逃げられてしまった…。



➢ 【6月21日】

年長児と相談(a)『カエル池が壊れてきたけど、どうする?』

*準備したもの：黒板/チョーク



Q.カエル池が壊れてきているけれどどうする?

「直す!」「メダカやヌマエビも同じ池にいるから、もっと広く、深くした方がいい!」「隠れる場所や卵を産む場所にもなるね。」

➤ 【7月6日】カエル池の拡張工事

*準備したもの：トロ舟／大磯砂／井戸水／シャベル5本／ノコギリ／ビニールシート1枚／レンガ10個



お父さんの日（父親参観日）に年長児の子どもとお父さんとでカエル池を作り直した。トロ舟が入る大きさになるように穴を広げて掘ったり、掘っていく中で出てきた木の根をノコギリで切ったりした。皆で協力して水→水草類→生き物（メダカ・ヌマエビ・タニシ）を流し込んで完成。

➤ 【11月11日】

年長児と相談（b）『カエル池の現状とこれからできること』

Qカエル池の生き物ってどうやってえさを食べているんだろう？

「自分で探して食べているんじゃない？例えばヤゴはオタマジャクシを食べるよ。」「ヤゴがオタマジャクシを見つけたら食べられちゃう!？」

⇒もう一つ池を作ろう！

Qカエル池は深いから、陸と池を行き来するにはどうしたらいいかな？

「レンガとかで階段を作れば?」「滑り台（スロープ）を作る?」



➤ 【11月16日】年中児が2つ目のカエル池を造成

年長児と行った11月11日の話し合いで、自分達の卒業後を考えて2つ目の池は年中児に作ってもらうことにした。事前に年長児がトロ舟を入れる穴を掘り始め、お父さんの日（父親参観日）に年中児親子に引き継いだ。



➤ 【11月28日】カエルの階段・スロープ作り

*準備したもの：レンガ／木の板／木工道具（金槌、釘）



11月11日の話し合いを元に、陸と池とを行き来する階段となるレンガを設置。「メダカの隠れ家になるから、レンガとレンガの間を少しあけた方がいい（隙間を作った方がいい）。鳥とかの嘴が入らないから。」

振り返り・保育者の気づき

・友達と意見を出し合う等、協働的に取り組むことで、それぞれの子の持ち味が他の子に伝わる場面が生まれ、自信につながる場面があったり、気づきやアイデアが生まれて新しい実践につながる活力になった。

・保育者が問いかけをすることで、これまでの経験から知っている知識を引き出したり、調べてみよう／試してみようという探求心を引き出したりすることに繋がった。

・これまで生き物を飼育した経験から生き物への愛情は持っていたが、自然の中で暮らす生き物とかわり、自然の原理（弱肉強食・自然の循環）にも気づいたり、どう捉えたらいいか考えたりする姿が見られた。